



イーハトーブ

5月25日号

今もウクライナ戦争やイラン戦争が続き、世界中の平和が脅かされている中、実は私たちの身近な所でも平和が脅かされている。それは、横須賀米軍基地に停泊している原子力空母の存在である。先日開催された三浦半島の条連主催のシンポジウム「横須賀から考える平和のつくり方」に参加し、横須賀米軍基地と原子力空母の状況を改めて確認した。横須賀米軍基地には、未だに米軍の原子力空母が入れ替わりで停泊しており、万が一原子炉に事故が発生して放射能が漏れるようなことがあれば、三浦半島だけでなく神奈川県全域が福島第一原発事故と同じように広範囲に渡り放射能汚染に晒される危険性がある。横須賀市に隣接する市区町村に住んでいる私からすれば、原子力空母の原子炉で万が一事故が発生し、放射能汚染が広がれば私の自宅にも被害がおよび、生活拠点が失われてしまうため気が気でならない。

しかし、今年4月には日米間の合意事項で禁止されている「横須賀米軍基地における原子力艦の動力装置の修理」と「原子力艦からの放射性廃棄物の搬出」という日米間合意違反の作業が強行され、横須賀が放射能汚染の危険に晒されている。また、横須賀米軍基地にも寄港する原子力空母がイラン侵攻に伴い中東海域に派遣されている。その原子力空母が横須賀米軍基地に戻ってきた時や停泊中に狙われ、攻撃により原子炉が破壊されて放射能汚染につながるリスクが増大している。

戦争で犠牲になるのは、罪の無い一般市民や子ども達であり、ウクライナ戦争やイラン戦争がそのことを証明している。何かあってからでは遅い。そうなる前に自ら行動し、戦争を止めていかなければならない。私たち一人ひとりができることを実践し、真実を掴む努力を少しづつ積み重ねていくことが、戦争を抑止する近道となる。(M.K)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行います。